



## 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果より

毎年4月に、文部科学省の全国学力・学習状況調査が、全国の小学6年生と中学3年生を対象に実施されています。この調査では、学力に関するテストと共に、子どもの生活についての質問調査も行われています。

その調査の中に、「読書は好きですか。」という質問が設けられていますが、本年度の小学6年生の調査では、「読書は好きに当たる」と回答した児童が、昨年度に比べて5.5%減少し36.6%でした。(2016年の調査では、49.5%) また、「平日に授業以外で読書をしない」と回答した児童は29%という過去最多という結果となっていました。(2016年の調査では、20.4%)

さらに、中学3年生の調査においても「読書好きに当たる」と回答した生徒が、昨年度に比べて7.6%減少し30.4%でした。(2016年の調査では、46.6%) また、「平日に授業以外で本を読まない」生徒は41.6%と、中学校でも過去最多という結果となっています。

(2016年の調査は、36.9%) 2016年からの推移を見ても、子どもの読書離れは、急速に進んでいるようです。

また、学力調査と生活調査の相関を分析したところ、アンケートで、「読書は好きか」という設問に対し、「好きに当たる」と回答した児童生徒の方が、国語、算数・数学、理科の全教科で成績が良いという結果もでています。

小学校の国語のテストであれば、「読書が好き」に「当たる」児童の正答率が73.6%と高く、「当たらない」児童は56.2%でした。読書が好きかどうかで約17ポイントの差がありました。文科省の担当者は「読書は、各教科の言語活動を支える基礎であり、本を身近に感じる取り組みが重要だ」とコメントしています。

幼い頃から、読み聞かせやたくさんの本に触れていると、子どもは、言葉の数が増え、文法についての理解力も上がり、話したり聞いたりする力もついてきます。また、人の気持ちを想像する力等も身につけていきます。そして、それらの力は、コミュニケーション能力を高め、人との関わりを豊かにします。

「本が好き」といえる子どもを一人でも多くするために、子どもの読書環境を家庭・地域、学校、図書館が協力して、整えていきたいものです。

## <スタンバード文庫 >

総合図書館の事業の一つに、「スタンバード文庫」事業があります。

「スタンバード文庫」事業とは、福岡市の教育委員会が、就学前の乳幼児やその保護者が継続的に絵本に触れられる環境づくりのために、身近な社会教育施設である公民館に100冊の絵本の文庫を整備したものです。

市内の公民館には、この100冊の絵本を利用した「スタンバード文庫」の本棚やコーナー等を設けていただき、子どもから大人まで、誰もが気軽に公民館へ立ち寄り、読書に親しむことができる環境を整備して頂くと共に、配布した絵本を乳幼児ふれあい教室や子育てセンター養成講座などの教材として利用していただくなど、絵本を積極的に活用いただいています。本の閲覧や貸出方法については、お近くの公民館にお問い合わせください。

また、総合図書館では、希望する公民館と共に「スタンバード文庫読み聞かせ講座」も開催しています。本年度も、福岡市学校図書館読み聞かせネットワーク、福岡おはなしの会の皆様などのボランティア団体の方々を講師にお招きし、9月10日の香陵公民館からスタートし、来年の2月まで、市内25の公民館での開催を予定しています。

この読み聞かせ講座は、公民館の「スタンバード文庫」の本を活用し、市民の皆様に、「スタンバード文庫」のことや乳幼児期の子どもへの読み聞かせの大切さや楽しさ、絵本の読み方や選本の仕方等を知っていただき、ご家庭での読書活動を進めてもらうことを目的に行っています。機会がありましたら、講座へのご参加をお願いします。



お話会の様子



簡単なりズム遊びの様子

10月27日より読書週間が始まります。子どもたちに、本との素敵な出会いがあるといいでしょ。 「読書の秋」という言葉は、8世紀頃、唐王朝の時代に活躍した中国の韓愈(かんゆ)という詩人が、自著「符読書城南」のなかに記した

時秋積雨露	秋の長雨もやみ、空が晴れ
新涼入郊墟	秋の涼しさが丘陵にも広がっている。
燈火稍可親	ようやく夜に、灯りに親しんで
簡編可巻舒	書物を広げられる。

という詩に由来するとも、いわれています。

穏やかな気候の中、家族みんなで読書を楽しんでみては、いかがでしょうか。

<須藤>



## 11月のことと人

### 11月5日「世界津波の日」

2015年の国連総会で制定。国際デーの一つです。1854年11月5日に和歌山県で起きた大津波の際に、収穫した稲むらに火をつけることで、村民の命を救い、被災地のより良い復興に尽力した「稲むらの火」の逸話に由来しています。この国際デーは、日本をはじめ142カ国が共に提案し、津波の脅威について関心が高まり、その対策が進むことが期待され制定されました。

### 11月20日「世界子どもの日」

1954年の国連総会で制定。国際デーの一つです。「世界の子どもの日」ともされています。英語表記はもともと「Universal Children's Day」だったが、現在では「World Children's Day」となっています。また、1959年のこの日には「子どもの権利に関する宣言」が採択され、その後、1989年のこの日に「子どもの権利に関する条約」が採択されました。

ミヒヤエル・アンドレアス・  
ヘルムート・エンデ  
(1929. 11. 12～1995. 8. 28)

ドイツ生まれ。児童文学作家。1961年に日本語訳：『ジム・ボタンの機関車大旅行』で、1回目のドイツ児童文学賞を受賞し、1974年に日本語訳：『モモ』で、二度目のドイツ児童文学賞を受賞しました。『モモ』は、各国で翻訳されていますが、特に日本では根強い人気があり、日本での発行部数は本国ドイツの次に多いそうです。また、『はてしない物語』の作者としても有名です。

アストリッド・アンナ・  
エミリア・リンドグレーン  
(1907. 11. 14～2002. 1. 28)

スエーデン生まれ。フィクション作家、児童書編集者、映画脚本家。『長くつ下のピッピ』『レンネビリヤのエーミル』、『やねのうえのカールソン』、『やかまし村の子どもたち』、さわぎや通りのロッタが登場する児童書シリーズでもよく知られていて、著書は、世界の70か国語以上に翻訳され、100以上の国で出版されています。

フランシス・イライザ・  
ホジソン・バーネット  
(1849. 11. 24～1924. 10. 29)

イギリス生まれ。アメリカ合衆国の中説家、劇作家。バーネットはイギリスに生まれたが、幼い頃に父を亡くし、16歳で一家とともにアメリカへと移住しました。1886年に『小公子』を雑誌『セント・ニコラス』に発表しました。児童向けとして書かれた本でしたが、19世紀末当時の母親たちに人気を博し、50万部を売り上げました。その他『小公女』、『秘密の花園』等が有名です。

カルロ・コッローディ  
(1826. 11. 24～1890. 10. 26)

イタリア生まれ。作家。代表作『ピノッキオの冒険』で世界的に知られています。しかし、『ピノッキオの冒険』が大成功を収めたのは、コッローディが亡くなつてからのことです。20世紀になって初めて、その作品の文学的な価値が、児童文学の専門家たちからも、完全に承認されるようになりました。

## 図書館員のひみつの本棚 第234回

今月は、子どもたちのひみつの話を紹介します。

### 『5年1組ひみつだよ』

吉野 万理子／作、佐藤 真紀子／絵 ほるぷ出版 2022.12 ¥1400(税別)

#### 〈お勧め年齢〉

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★☆☆ 小高学年★★★ 中学生★☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

#### 〈本の紹介〉

書名の通り、とある小学校の5年1組の子どもたちが持っている「ひみつ」の話を集めた短編集です。全部で15人の児童が登場し、15個のひみつが明かされます。さあ、どんなひみつの話が出てくるでしょうか？

#### 〈子どもに手渡す時のポイント〉

1冊に15話入った短編集なので、1話1話が非常に短く、長いお話が苦手な子にも読みやすいと思います。「ひみつ」というキーワードでも子どもが手に取りやすいのではないでしょうか。

この本は「短編小学校」としてシリーズ化しています。5年生と6年生で3組ずつあり、テーマは本によって異なります。該当するクラスのお子さんには尚更すすめやすいでしょうし、クラスに関係なくシリーズ読破を目指してみるのも良いのではないでしょうか。

また、ここで紹介したほるぷ出版の本はハードカバーの「図書館版」ですが、静山社からはソフトカバー版が出ています。読みやすい方をお求めください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみて下さい